

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 4 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 4 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,099 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲3.1%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,884 円（伸び率▲4.9%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,575 億円（伸び率+1.6%）、薬剤料が 4,514 億円（伸び率▲4.7%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 809 億円（伸び率+5.2%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,320 円（伸び率▲7.6%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.81 種類（伸び率▲1.0%）、24.4 日（伸び率+1.8%）、78 円（伸び率▲8.3%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,653 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲228 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 696 億円（伸び幅▲152 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+12 億円（総額 267 億円）であった。（→P.13）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,653 億円 (▲228 億円)	21 循環器官用薬 (696 億円)	11 中枢神経系用薬 (648 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (553 億円)
0 歳以上 5 歳未満	30.5 億円 (▲5.7 億円)	44 アレルギー用薬 (13.3 億円)	61 抗生物質製剤 (7.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.9 億円)
5 歳以上 15 歳未満	81.0 億円 (▲7.4 億円)	44 アレルギー用薬 (36.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (18.4 億円)	61 抗生物質製剤 (7.5 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,276 億円 (▲72 億円)	11 中枢神経系用薬 (277 億円)	21 循環器官用薬 (207 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (202 億円)
65 歳以上 75 歳未満	886 億円 (▲76 億円)	21 循環器官用薬 (202 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (164 億円)	11 中枢神経系用薬 (109 億円)
75 歳以上	1,379 億円 (▲66 億円)	21 循環器官用薬 (283 億円)	11 中枢神経系用薬 (242 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (182 億円)

- (4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,884 円（伸び率▲4.9%）で、最も高かったのは北海道（10,475 円（伸び率▲4.7%））、最も低かったのは佐賀県（7,632 円（伸び率▲1.9%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率▲2.5%）、最も低かったのは滋賀県（伸び率▲6.6%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注)}	73.8%	+4.9%
薬剤料ベース	17.9%	+1.7%
後発品調剤率	71.5%	+3.8%
（参考）数量ベース（旧指標）	50.9%	+5.3%

注)【後発医薬品の数量】/（【後発医薬品のある先発医薬品の数量】+【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+5.2%	+25.5% (5 歳以上 10 歳未満)	▲1.3% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	17.9%	19.9% (0 歳以上 5 歳未満)	12.3% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	73.8%	76.9% (60 歳以上 65 歳未満)	64.5% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬）薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	719 億円 (+36 億円)	21 循環器官用薬 (225 億円)	44 アレルギー用薬 (104 億円)	23 消化器官用薬 (78 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.5 億円 (+1.5 億円)	44 アレルギー用薬 (2.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	61 抗生物質製剤 (1.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	15.7 億円 (+3.0 億円)	44 アレルギー用薬 (10.0 億円)	61 抗生物質製剤 (2.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	245 億円 (+16 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	44 アレルギー用薬 (42 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)
65 歳以上 75 歳未満	179 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	23 消化器官用薬 (25 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (18 億円)
75 歳以上	271 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (90 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)	11 中枢神経系用薬 (30 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,178 円	1,533 円（北海道）	995 円（福岡県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.3%	+9.4%（徳島県）	+0.5%（岩手県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	73.8%	84.4%（沖縄県）	66.0%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	17.9%	21.8%（鹿児島県）	15.4%（京都府）
後発医薬品調剤率	71.5%	80.6%（沖縄県）	65.3%（山梨県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	50.9%	60.9%（沖縄県）	46.1%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成30年4月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。

〔お知らせ〕

- 平成30年4月号から下記の表を追加しました。これに伴い、表番号、ページ番号を変更しました。その他、形式的な変更を行いました。
 - ・薬剤料総額（薬効分類別）（全年齢）
 - ・処方箋1枚当たり薬剤料（薬効分類別）（全年齢）
 - ・後発医薬品割合（数量ベース、新指標）（年齢階級別）
 - ・後発医薬品薬剤料（薬効分類別）（全年齢）
 - ・後発医薬品割合（薬剤料ベース）（全年齢）
 - ・後発医薬品割合（数量ベース、新指標）（全年齢）
 - ・処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料（薬効分類別）（全年齢）